

沖縄 病床と人手が不足

「高齢者にとって、コロナは重症化リスクの高い病気である」と認識され、高齢者施設で感染が広まっています。高齢者施設で感染者を一人でも確認したら、ゾーニングをとるなど感染対策を強化する」と。方法が分からぬ」としたが、

5類移行後も



沖縄県で新型コロナウイルスの感染拡大が止まりません。救急搬送困難事案が増え、医療現場では患者数の増加に加えて、職員や家族の感染による人手不足で医療ひっ迫が深刻度を増しています。県立中部病院感染症内科の高山義治医師に現状と对策を聞きました。

(西口友紀惠)

県立中部病院感染症内科
高山義治医師

「コロナ症状なら外出控えて」

沖縄県内の一定医療機関で回してしまったこのため、入院患者数が5月28日時点では55人と明らかになりました。この間に感染症対策の要となる医療体制を確保する責任者は変わらざる「5類」になりました。

6月26日～7月2日)は48人が500人を超えると医療39人で前週の1・23倍。ひっ迫どころの状況になりました。この間に感染症対策の要となる医療体制を確保する責任者は変わらざる「5類」になりました。

同時期の全国の6・7倍です。県によると2日までの1週間の感染者総数は推計で1万2260人。12日時点(暫定)で2260人が入院し、13人が重症です。

高山医師は「もともと沖縄は病床が不足しており、一般病院の病床利用率が全

告数が増えてくる。現在のサーベイランス(感染症発生動向調査)は感染状況を正確に捉えられていないのではないか」と指摘します。

「症状として若者の多くが軽症ですむため受診しない」「受診しても検査を希望しない人が増えた」など、症状があるときは外出を控え、仕事や学校は休むこと。高齢者などハイリスク者は「5類」。これが感染対策の要だ」と強調します。

「診療の現場において、5類になつて以降、症状があつてもアクティビティに動いている人が増えていると感じます。ワクチン接種について、「5類後はほぼ現場任せになつていている」として、「とにかく集団生活をしている高齢者や基礎疾患がある人は接種を検討し、自分と周囲を守ることに協力してほしい」と話します。

「5類」の中高年の感染者が急速に増えています。家内感染もありますが、独居の高齢者でも増えている。市町村と県は協力して、県見で、重点医療機関で休館などで、急速に横並びで報